

◎開目抄講義 第15回「転重軽受」

宿業の苦しみは断じて消える！

不幸の闇を払い、勝利の太陽が昇る！

これが日蓮大聖人の大確信であります。まさに、宿命転換の仏法とは、希望の宗教であり、幸福革命の宗教の異名に他なりません。

また、これまでの悪から悪への六道輪廻をとどめて、生々世々、人界・天界・声聞界・縁覚界・菩薩界そして仏界の利益を得ていけると仰せです。つまり、今世の転換を起点にして、善から善への流転に入ることができるのです。

(『開目抄講義 (下)』113 ページ)

◎全国最高協議会 (2002年12月25日) でのスピーチ

仏法は「変毒為薬」の大法である。何があろうとも、必ず乗り越えていくことができる。また一つずつ絶対に打開できるように試練が現れてくるのが、「転重軽受」の甚深の法門である。

ゆえに、宿命転換の戦いに、断じて負けてはならない。

どんなに大変なことがあろうと、妙法を唱え、仏意仏勅の学会とともに生きぬく人は、厳として守護され、必ずや良い方向へ向かっていく。所願満足の幸福の軌道を歩いていけることは、御聖訓に照らして、間違いない。

(『池田大作全集 第94巻』238 ページ)